

## インフォメーションディスプレイ Vol.12



山陽新聞社  
情報技術局  
電子技術部長・  
データベース部長  
水田 英行 様

## 山陽新聞社 様

1879年の「山陽新報」創刊より、岡上で127年の歴史を刻む山陽新聞社様。岡山県、広島県、香川県を主要配達エリアに、地域に根ざした新聞社として、読者の方々の信頼と期待に応え続けられています。現在は、本社を中心に9支社・21支局のネットワークを確立。さらに関連グループ各社様との協力を図り、「地域の総合情報産業」をめざし多彩な情報を発信されています。



所在地:岡山県岡山市

## メディアミックスの象徴を担う、 エントランスに3台並んだ『PN-455』。

PN-455  
3台導入  
(エントランスホール)

**岡** 山市のメインストリートにあって、一際目を引く山陽新聞社様の本社ビル。2006年夏に竣工されたこの新しい本社ビルは、山陽新聞社様が本社を構える高層棟と、グループ会社のテレビせとうち様が本社を構える低層棟で構成されています。

新聞社とテレビ局の新たなコラボレーションにも期待がふくらむ中、高層棟と低層棟とを結ぶ1階エントランスに『PN-455』が導入されました。「新本社ビルはセキュリティをしっかりと構築しながらも、地域に開かれたメディアタワーとして、樹木を植栽した吹き抜けの広場や多目的ホール、ギャラリーなど、地域の皆様に気軽にご利用いただけるスペースを設けています。そして、そのすべてに通ずるエントランス部分にインフォメーションディスプレイを設置し、“メディアミックスの推進”を表現できる手段として活用しています。導入にあたっては情報の表現力をより強化するため、地元企業であるコスモ情報システムにシステム開発を依頼し、テレビ放送とマルチメディアコンテンツを同時に表示したり、3つの画面を自由に分割・結合できるシステムにしました。」と、山陽新聞社・情報技術局の水田部長はおっしゃいます。



### 導入時の評価ポイント

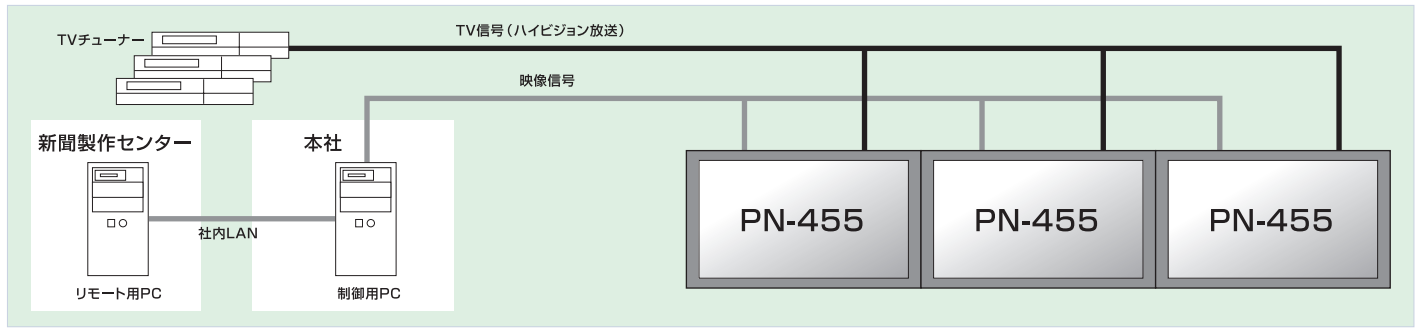
■ 地上波デジタル放送にも備えられる  
フルスペックハイビジョン対応

■ エントランスを華やかに演出する  
インパクトのある表現力

■ 多彩な情報ソースに対応する  
充実した入力端子

■ パソコンによるリモートコントロールで  
複数のディスプレイも一元管理が可能

■ システム概略図



導入の経緯

新聞社とテレビ局の多彩なコンテンツに対応する  
充実の入力端子と、フルスペックハイビジョンならではの性能を評価。

山陽新聞社様では今回の新本社ビル建設にあたり、山陽新聞社様とテレビせとうち様、さらにはケーブルテレビ局である岡山ネットワーク、通称oniビジョン様の3社で、新たな広報活動を展開できないかと協議を重ねられました。そこで、ディスプレイを使った演出を決定されたのですが、導入するディスプレイの性能には厳しい条件が課せられていました。「まずは、家庭用テレビと同レベル以上の画

質であること。いろいろなコンテンツに対応できる入力端子を持つこと。遠隔制御に対応できること。そして何よりも、岡山市内で12月からスタートする地上波デジタル放送を、フルスペックハイビジョンで映し出せることでした。これらの条件を満たすのは、シャープのインフォメーションディスプレイしかありませんでした。」と山陽新聞社・情報技術局の野田様、岸野様はおっしゃいます。



新本社ビルの警備室に設置された、『PN-455』の制御用PC。コンテンツの編集作業が行われている新聞製作センターのリモート用PCとは、社内LANで結ばれている。



山陽新聞社 情報技術局  
野田 真樹 様



山陽新聞社 情報技術局  
岸野 豊 様

導入後の感想

PN-455×3台で、新聞の1面記事を表示。  
ワイドな画面で、インパクトのある演出ができました。

エントランスの壁に、横一列に3台並べて設置された『PN-455』。右のディスプレイにはテレビせとうち様の、左のディスプレイにはoniビジョン様の、リアルタイムな放送映像が映し出されます。そして真ん中のディスプレイには、山陽新聞社様から発信されるニュースが、随時更新されていきます。「このように3台のディスプレイに別々のコンテンツを配信することもできますし、3台を1つのディスプレイに見立てて、パノラマ風の画面を表現することもできます。」と映し出されたのが、山陽新聞朝刊の1面記事(9

月26日付)。45型×3台の迫力ある画面に、紙面がゆっくりとスクロールされていきます。野田様、岸野様は「掲示板に新聞を貼っていた旧本社ビルのスタイルより、このようにディスプレイを使った方が、はるかにインパクトがあります。離れた場所からも写真やタイトルをはっきりとご覧いただけ、とても満足しています。」とおっしゃいます。また、明るく鮮明な液晶画面がエントランスに映え、山陽新聞社様の受付を出た真正面に設置されていることも相まって、「来られるお客様の目を引きますので、効果の高い



横一列に並んだ3台の『PN-455』に、新聞記事を表示。ゆっくりとスクロールしていく中で、1面記事の全体像がうかがえる。

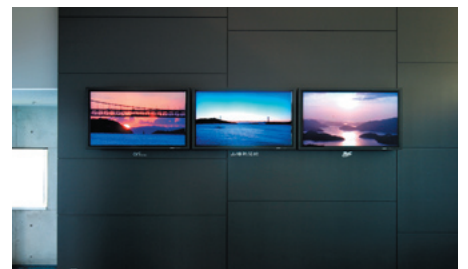
情報提供ツールになっています。」とのことです。

今後の展開予定

地上波デジタル放送の開始で、フルスペックハイビジョンの本領発揮が楽しみです。

「今年12月からの地上波デジタル放送開始で、今回導入したインフォメーションディスプレイの本領はますます発揮されることでしょう。インフォメーションディスプレイに映し出すテレビ画面は、デジタルハイビジョンの高画質でご覧いただきたい。それが、フルスペック

ハイビジョン対応にこだわった理由です。」と水田部長はおっしゃいます。また今後の反響如何では、3面のインフォメーションディスプレイを6面に、さらには9面にと夢は膨らんでいるようです。



これまでには『PN-455』をアルバムのように活用し、山陽新聞社写真部の皆さんが撮影された美しい風景写真を配信したことも。